令和５年度後志管内社会教育委員功績者表彰
～長年の地域社会教育の振興・発展に感謝～

積丹町社会教育委員長を務める河岸悟郎さん（美国町）が、５月28日に後志管内社会教育委員連絡協議会・駒形勝博会長から表彰されました。

河岸さんは、平成23年から13年間、社会教育委員として活躍され、令和３年４月からは、社会教育委員長として町社会教育委員の会議の運営と社会教育事業の推進に寄与されました。

今後も本町の社会教育の振興発展にご協力をいただきたいと思います。

この度の受賞、誠におめでとうございます。健康に留意され、益々のご活躍をご祈念いたします。

ＪＴの森積丹『森づくりの日 春』森林保全活動

５月25日、日本たばこ産業株式会社（以下、「ＪＴ」）との森林保全活動を開催し、遠山尚ＪＴ北海道支社長や同社員、関連企業社員、関係機関職員、町民など１７７名が参加しました。

野外学習のプログラムでは、循環型藻場造成の取り組みとして、余別漁港内のコンブ養殖施設で大きく成長した実物の「ホソメコンブ」が紹介され、想像以上の大きさに、参加者からは驚きの声が聞かれました。その他にも、海洋プラスチックごみを用いた「アクセサリー作り体験」や森の中を走行する「ｅバイク体験」などさまざまな森林アクティビティを体験したほか、森・川・海エリアの３グループに分かれ、ゴミ拾い活動を行いました。

参加者が心待ちにしていた昼食には、積丹町商工会女性部による海産物をぜいたくに使った浜鍋が振る舞われ、おかわりの列ができるほど好評でした。

▲人の背丈ほど成長した「ホソメコンブ」

▼完成した自分の作品を持つ「アクセサリー作り」参加者

森林が育んだ水が、川を流れ海へと注ぎ、豊かな海を形成する森・川・海のつながりなど積丹町の魅力を体感し、楽しい時間を過ごした参加者からは、「ＪＴの森のイベントを通じ、自然環境の大切さを学ぶことができて楽しかった。」「浜鍋がおいしかった！」との感想が聞かれました。

今後もＪＴの皆さんをはじめ、国・道の関係機関、町民の皆さんの協力で、ほっかいどう企業の森林づくりのトップランナーにふさわしい「海を育む水源の森に」を目指す取り組みを進めます。

▲ゴミ拾い活動の様子「森エリアグループ」

積丹町 地域おこし協力隊がつくる 町おこし広ほう Vol.1

今回題字のご協力は
美国町在住　木田丞之介（きだじょうのすけ）さん

～活動を隊員が紹介します！～

積丹町の地域おこし協力隊は、令和４年度から「企業委託型」の現行体制へと進化し、６月１日時点で11名の隊員が、町内各事業所で意欲的に地域協力活動に励んでいます。

その中で、各事務所以外での業務も多く、町内の皆さんと「ふれあう」「気軽に語らう」「お互いに行き来する」といった機会がなかなかない！！どうしよう…と悩んでいたとき、町から「広報の誌面を隊員の皆さんで使ってみませんか？」と提案を受けました。

こうした経緯から、町協力隊員がアイディアを集結させ、本誌から毎号１ページを執筆スタートさせていただきます。旬な情報の発信のほか、皆さんからのご意見やご質問などにお答えするコーナーも準備中です！これからどうぞよろしくお願いします。

【今月号の編集長】佐藤佳奈（一社）積丹やん集小道協議会

【情報提供】

（株）しゃこまる　井上 和也　隊員

電 話：0135(48)7355
メール：shakomaru.kaz@gmail.com

旧味処しゃこたんに併設されたキャンプ場を整備中です。新たにキャンプ場管理道ができ、草木を軽トラで運搬できるようになりました。去年は、全て人力でやっていたので、作業効率が格段に上がりました。まだまだやるべきことは満載ですが、オープンが待ち遠しいです！

事前に連絡をいただければ、整備中のエピソードも交えながら案内します。見学･ピクニック・キャンプも利用可能なので、どなたもお気軽にご連絡ください。

左／キャンプ場から見る宝島の眺望
右／新たに造成された「キャンプ場管理道」

（一社）積丹やん集小道協議会　佐藤 佳奈　隊員

石蔵一般オープン時間
土日 /10:00 ～ 17:00

石蔵・建物内部

石蔵の入り口

６月１日から毎週土日限定で海森スタジオ（ヤマシメ石蔵）を、一般オープンデーと称し、公開しています。普段は町内外へ施設の貸し出しをしていますが、一般オープンデーは、石蔵内の施設見学や休憩にご利用いただけます。

また、ジンの試飲や販売も行っております。

石蔵向かいのヤマシメ番屋と共に、美国町内散策のコースにぜひ加えてみてください。タイミングがよければ、ヤマシメ番屋で大人気販売中の「ウニマグネット」や工芸品を制作しているスタッフの姿も見られるかもしれませんよ！